❶❷オープニング時に展示されていた、西田明夫さんの作品。来館者には、オルゴールの小さな博物館のスタッフが、懇切に説かしてくれる。
❸オルゴールの小さな博物館、アンティークのオルゴールの数々は、1日3回決められた時間に、スタッフの解説を受けながら、その演奏を聴くことができる。
❹通路に面した展示スペース。多くの作品が見やすいように工夫されている。
❺いろいろな方向からも見ることができるように作られているコーナースペース。
❻ハンドヴェルクのロゴが美しい、センタースペース。

秋はシックな美術館へ…。お散歩がてらに楽しめます

15年前に日白台にオープンした、「オルゴールの小さな博物館」。その2号店が、お台場にオープンしました。そこに併設された「ハンドヴェルク」は、木工クラフトを愛する人のための、情報発信基地でもあります。

ハンドヴェルクとは、英語でいうハンドワークという意味。手づくりを愛する人のための情報基地、というのがこのギャラリーです。

ホテルのメインロビーを通り抜けると、すぐそこには展示スペースが出現する。

今年6月に東京のお台場にオープンした、ホテルグランパシフィックメリディアン2階に、「オルゴールの小さな博物館」が開設されました。こっしりと重厚な家具を思わせるオルゴールのほとんどは、18世紀から20世紀にかけて作られたアンティークの名品。きらめく音色が、ひとときの安らぎをもたらしてくれます。

この博物館に併設して、個性的な展示スペース、「ギャラリー・ハンドヴェルク」も同時オープンしました。そこで、スタッフの責任者である名村明日子さんに、お話をうかがいました。

「ハンドヴェルクとはドイツ語ですが、英語にするとハンドワークといった意味合いになります。今までもオルゴールを通じて、さまざまなクラフトとのかかわりを持ってきましたが、今回展示スペースができたことにより、更に多くの作家と作品をご紹介することが可能になりました。質の高い、優れた作品の展示にはいままでとおり力を情しみませんが、今後はクラフト作品発表の場として発展させていくことを目標に根ざしています。そのひとつとして、アマチュア作家の方々が参加しやすい機会を作りたいと思っています。積極的に公募を行い、それらの作品の展示にも力を入れていきたいですね。新鮮の感じられる、コンセプトのしっかりした作品との出会いを楽しみにしています。オルゴールという枠にとらわれず、社会性のあるものをどんどん応募してください。お待ちしています」

からくり人形の前でオルゴールの魅力を語る、名村明日子さん。

見る人の気持ちを和ませ、作り手と使い手双方が楽しむことのできる場を作りたいと語る名村さんは、今後の活動にも意欲的です。

本誌No.36でも告知したように、今年11月16日から12月25日まではクリスマス展を、12月26日から来年1月17日までは干支展を企画、クラフトを楽しみたい方々の来店に期待しておられます。

これまで、作ってはみたけれど展示のチャンスがなく埋もれている作品をお持ちの方、あるいはこの企画に創作意欲をかき立てられた方は、応募してみてはいかがでしょう。

広いウインドー越しの身近な美術館といった趣の「ギャラリー・ハンドヴェルク」。ぶらり散歩に、まずはお出かけになってみませんか。